

血中ナノ粒子の動態変化による代謝能力検査システム

特許第 6864279 号

情報収集方法、情報収集システムおよび情報収集装置

■技術内容と特徴■

本技術は、対象となるヒトが健康で正常な代謝能力を持つか否かを、パソコンやハードディスク、顕微鏡などのシステム構成を使用し、時間経過を経ながら一滴の血液の動態変化で評価判断するものです。

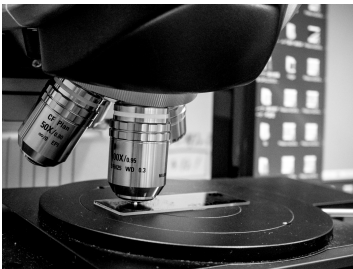
個人が摂取する、食品、医薬品、サプリメントなどに含有されるナノ粒子が、母体の細胞形成などの代謝能力に、どう影響しているか把握できます。

また経口摂取ばかりでなく、愛用する化粧品や医療注射、さらには精神的なストレスも含め、その人の日常生活が健康維持に叶うものか、あるいは将来病気になる可能性があるかを判断できます。

■応用シーン■

創薬では、副作用が出やすい人と出にくい人を選出することが可能で、治験精度の向上に貢献します。また一定期間飲用した場合の、代謝機能への副作用の影響性も、およそ3日間で確認できます。(注1)

消費者レベルでは、自分の飲用するサプリメントが本当に自分に合っているのか、ストレスが体調に影響しているかなど、医療機関の検査でも明確にならない生活の質を確認できます。仮に本検査の結果が悪ければ即座に生活改善やストレス解消を実践、数ヶ月後に再確認することを重ねれば将来の病気発生を大きく回避でき、国の医療費削減にも寄与します。



Metabolic capacity by Dynamic change of NanoParticles in blood

■導入先の例■

医療レベルの採血が不要で、病気診断では無く治療技術でも無いため、保健士、健康管理士、整体師など、医師以外の健康関連技術者が導入可能です。当然ですが開業医も、かかりつけ医師として患者さんの生活改善指導にご活用頂けます。

他にも製薬メーカーはもちろん、健康食品や化粧品など、人体への安全性確認が必要な産業分野で広くご活用頂けます。

(注2)

■方法■

1. 市販の血糖値測定用の採血用穿刺具等で検査を受ける本人に血液を一滴採取してもらいプレパラートに落とす
 2. 顕微鏡観察映像を、パソコンやハードディスクに蓄積
 3. 20~24時間後に再観察、タンパク質塊が画面を占拠していればほぼ正常
 4. 占拠していない場合はさらに40~48時間後に観察
- 上記以外にナノ粒子の比較観察を併用

問い合わせ先 株式会社ソウルリバーズバンキング

〒 323-1105 栃木県栃木市藤岡町甲 1687-1

tel : 0282-61-1161

fax : 0282-61-1141

No.21-1

■ ナノ粒子のメカニズム ■

人体血液には、ヒトが取り込んだ生命に必要な物質を、体内にくまなく運搬する役割があります。例えば食物なら、胃腸で消化した食品をナノレベルまで分解し小腸を通し吸収、血液へ送り込みます。またシャンプー、化粧品、歯磨き剤のような接触性のものは、含有する僅かな水分と共に表皮から毛穴を通して皮下へ浸透、細胞や血液中へ流れ込みます。こうして侵入したナノレベルの粒子の殆どは、コロイド粒子として細胞水や血漿質の中でブラウン運動を呈しながら全身を巡ります。

コロイド粒子は電気泳動を持つイオン分子で、人体血液中ではヘモグロビンというコロイド蛋白が代表格です。ヘモグロビンは100nm前後のナノ粒子で、地球進化の中で自然界が作り出した粒子ですが、この粒子は自然由来のメカニズムに基づく独自の電磁気反応の回路を持ちます。赤血球内には、このヘモグロビンが充満しています。

一方、摂取した物質の持つ成分から生まれるナノ粒子の中には、ヘモグロビンや他の体内コロイドに類似した粒子を形成する場合があります、これらも赤血球内に入り込みます。そこには人為的な分子合成技術で作られたものから派生した粒子も含まれ、そうした粒子の電磁気的反応の回路は画一的・単一的で、自然システムの複雑性に順応できません。

■ 赤血球の形状変化とナノ分子の挙動変化 ■

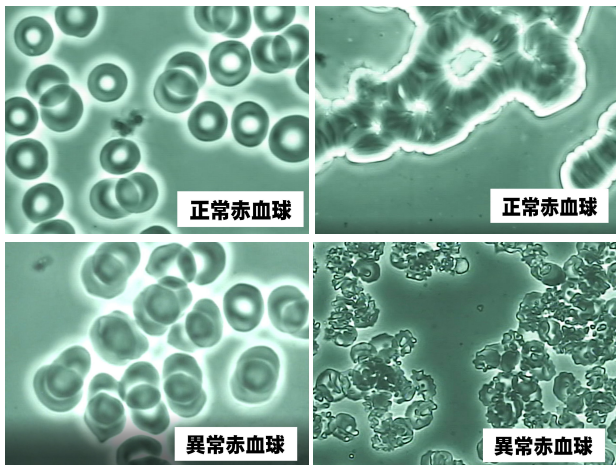
通常、赤血球は、ほぼ正円で中央が凹んだ形状です。これは赤血球内のヘモグロビンと血漿質の、絶妙な電磁气的反応バランスによるもので、ヘモグロビンがパラパラに均等分散できる環境で維持されています。ところがここに異常な電磁气的反応回路を持つ分子が入り込むと、ヘモグロビンのような複雑反応に対応できず、分散バランスが崩れ分子の集合が一部に発生します。するとヘモグロビンの分散バランスが崩れ、赤血球はいびつや突起が発生します。

またナノ粒子を赤血球から取り出して放置すると、通常は自然界の複雑連鎖が形成されます。しかし人工合成由来のものは単一の電磁気反応のため、画一的な形状しか作れません。その代表形状として、コロナ状の円形物の形成があります。

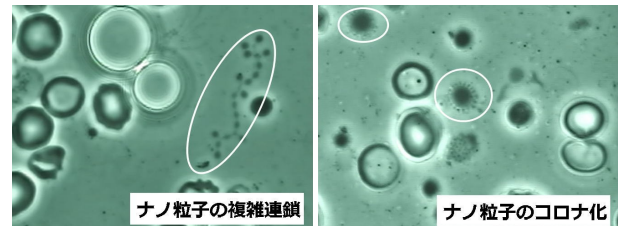
過去に見るこのような人工合成が関与する分子として、水俣病のメチル基が作った偽メチオニンが挙げられます。今弊社が懸念するのは、偽メチオニンのような、自然本来の姿に酷似した偽タンパクや偽アミノ酸などのコロイド粒子の人体への侵入です。こうした偽粒子が、コロナ菌や耐性菌の発生に関与している可能性を否定できません。

本技術は、このような検証にも応用可能です。

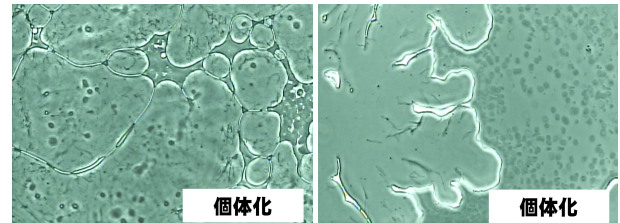
採血直後：赤血球評価



20~76時間後：ナノ粒子の動態評価



20~76時間後：個体化評価



■ 量子生態学とブラウン運動 ■

本技術は、弊社が提唱する量子生態学という新しい代謝理論から誕生したものです。それは、ブラウン運動を、アインシュタインが熱運動と定義したことを知らなかったことから生まれました。この理論を知らないまま弊社は、イオンを活用したブラウン運動の強制変化を人体に繰り返し作用させ、そこで起こる血中分子の動態変化を顕微鏡で観察し続けていました。やがて気づいたのが、地球自然界の基本的な代謝メカニズムです。弊社が見たブラウン運動は、地球の生命活動の全てと言えるものでした。

「ブラウン運動とは、原子や分子の、イオン・双極子・ファンデルワースなどによる電磁気反応運動であり、これが進化を牽引する」というのが、量子生態学における自然現象の基本概念です。